



産婦人科の

話題あれこれ

さんむ医療センター

産婦人科医長 木下 一志

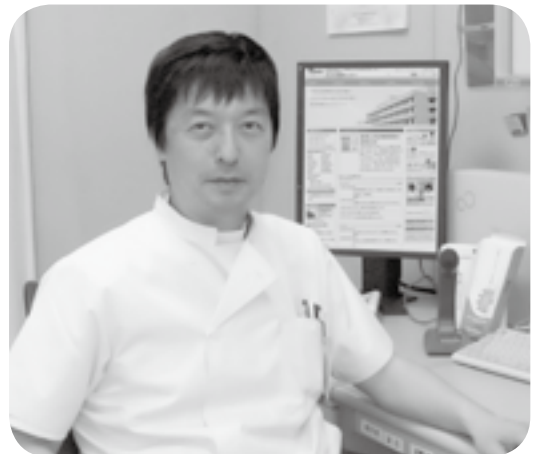
まずは子宮頸がんワクチンについて。

『子宮がん』と一般にはひとくくりにされますが、子宮がんには子宮の入り口にできる『子宮頸がん』と子宮の中から発生する『子宮体がん』に分けられます。この二つのがんは産婦人科医の立場からみると全く別の病気とみなされます。今回予防ワクチンができたのは子宮頸がんの方です。

子宮頸がんの原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスであることがわかりました。このことを解明した方は2008年にノーベル賞を授与されています。HPVは主に性交渉により感染するのですが、手指を介しても感染することもあります。特殊なウイルスの様に感じる方もいらっしゃるかもしれ

ませんが実は誰でも感染しうるウイルスなのです。ただこのウイルスに感染したからといって必ず頸がんになる訳ではありません。ほとんどの人は感染しても体内から自然に排除されます。一部の人だけが持続的にウイルスに持続感染した結果、子宮頸がんになる可能性があるのです。

頸がんワクチンはこのウイルスの感染をブロックするワクチンです。がん治療ワクチンではないことに注意してください。またすべてのウイルスに対して効果がある訳ではありません。このワクチンにより約7割の子宮頸がんが予防できるといわれています。予防ワクチンであることから10代での接種が勧められています。もちろんそれ以上の年齢でも効果はあります。45歳までが接種の



対象です。お母さんと娘さんで一緒に受けにきた方もいらっしゃると思います。高校や大学の入学のお祝いに娘さんへの母からのプレゼント、なんというのも素敵だと思いますがいかがでしょうか？（ただこの原稿を書いている時点（4月）ではワクチンは品薄のため希望しても打てない状態です）

もう一つ生理痛のお話をしましょう。生理痛でお悩みの女性は多いと思います。生理痛には何らかの原因、例えば子宮筋腫や子宮内膜症といった病気のために異常に生理痛が強くなる場合と、特に病気もないのに生理痛が強い場合があります。前者は原因の病気を治療すればよくなることが多いのですが、後者は若いときからそうだから…とあきらめている

方も多いようです。痛み止めをたくさん飲んで、時には仕事や学校も休んだり、余りの痛みに耐えかねて救急車で運ばれる方も決して珍しくありません。（余談ですが生理痛で倒れて救急車が呼ばれるのはなぜかJRの駅がほとんどです。なんでだろう？）

そんな生理痛にお悩みのあなたにご紹介したいのがピル（低容量ピルⅡ女性ホルモン剤）です。ピルって妊娠しないように飲む薬でしょう？と思っている方が多いのですが、実は生理痛を軽くするあるいは生理の出血量を減らす作用もあるのです。また生理不順の方もぴったり28日周期で生理が来る様になります。ホルモン剤と聞くとなんとなく敬遠する方もいるのですが、毎月多量の痛み止めを飲みまくっているほうがよほど体に悪いと思います。ちなみに飲んだ方に聞くと『もつと早く飲めばよかった』という声が圧倒的です。

生理痛でお悩みの方、あきらめずに産婦人科にご相談ください。

4月よりさんむ医療センターの産婦人科が診療再開となりました。手術や里帰り分娩も受け付けています。どうぞお気軽にご相談、お問い合わせください。

問

さんむ医療センター

地域医療連携室 ☎(82)2521